



ぜぜようちえんだより



令和7年10月
大津市立膳所幼稚園
園長 村上 淳子

命に触れる、命を感じる経験を通して

幼稚園では、子ども達が動植物に触れる機会を大切にしています。先生と一緒にお世話をしたり、触れたりし保育室の中で一緒に過ごすうちに、愛着の気持ちがあふれ、いたわったり、大切にしようとする気持ちを育てています。



チョウチョさん、元気でね。

園庭の山椒の木にいた『アオムシ』。子ども達が見つめて、お世話をすることになりました。毎日山椒の葉をモリモリ食べる様子に「めっちゃ、食べてる!」「大きくなってきた」と毎日の変化や成長を見守ってきました。アオムシからサナギになる不思議さやチョウに羽化した感動を全身で感じている子ども達です。

チョウチョに変身した雨降りの日。「チョウチョさん、傘ないし」「濡れるかも」と心配したり、「今日は、チョウチョさんの誕生日」と自分達と同じように誕生会をしたり、チョウチョの気持ちになって考えようとする子ども達でした。

新しい小さな友達

4歳児の子ども達が、小学校の先生から2匹のカメを譲ってもらいました。毎日水を替えたり、ご飯をあげたり、一緒に遊んだりしています。「カメさん、この道行けるかな」と段ボールで道を作ったり、「怖がっているみたい」と高いところから落ちそうになっているカメを助けたり、新しい小さな友達の存在が、子ども達にいろいろな気づきや発見をもたらしてくれています。今後は、名前を考えたりもするのかな・・・。



編集後記

膳所幼稚園長 村上 淳子

毎日お世話をしたり、一緒に遊んだりする中で、愛着をもって関わり、相手（動植物）の立場となって考えようとする子ども達。身近な動植物に関わる中で、生命の不思議さや尊さに気づいて大切にすることを重ねていってほしいと願っています。

子ども達が豊かな経験を重ねていくためにも、私達

教師が園内外の自然環境を積極的に取り入れ、子ども達が好奇心や探究心を育む保育実践を重ねたいと考えています。幼児期の実感を持った経験が、命あるものを大切に、生きることの素晴らしさを感じる心の豊かさにつながっていくように思っています。